

戦後日本社会史 A

概要

現在の日本が抱える課題を考える際、戦後日本の歴史をひもとくことは欠かせない作業である。授業では社会史を中心としながら、政治史・経済史・外交史・文化史などを総合的に概観し、生活者としての視点から戦後史を編み直していくことをめざす。具体的には、敗戦から現在までの通史を学んだうえで、テーマ史を学習する。双方向的な授業を行うため、グループでの議論・質問など、積極的な受講態度を求める。

担当教員	前川直哉
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

暗記ではない歴史を学ぶ楽しさを実感するとともに、単純な「昔は良かった」史観からは距離を置き、実証的な視点で戦後社会史を検証する力を養う。また、とりわけ高度経済成長について、その実態と功罪について学ぶとともに、そこで得られた知見を現在日本の課題にどのように適用できるのか、自分なりに考えることができる。

各回の内容

1. イントロダクション なぜ歴史を学ぶのか
2. 通史1 敗戦・占領・冷戦(1)
3. 通史2 敗戦・占領・冷戦(2)
4. 通史3 独立と55年体制
5. 通史4 社会運動・安保闘争
6. 通史5 高度経済成長がもたらしたもの(1)
7. 通史6 高度経済成長がもたらしたもの(2)
8. 通史7 成長から成熟へ
9. 通史8 現代日本の課題
10. ジェンダー・セクシュアリティの戦後史(1)
11. ジェンダー・セクシュアリティの戦後史(2)
12. ジェンダー・セクシュアリティの戦後史(3)
13. 戦後教育史(1)
14. 戦後教育史(2)
15. 戦後メディア史

準備学習

毎回の授業後、内容の復習をしておくこと。また、家族など身近な人から「戦争体験」「敗戦直後の体験」「高度経済成長期の体験」などを聞いておくことと良い。

評価方法

授業内ワークシート50%、課題レポート50%

教科書

指定しない。授業中にレジユメを配布する。

参考文献

授業中にその都度紹介する。

戦後日本社会史 B

概要

戦後に多くの原子力発電所が建設され、2011年に起きた原発事故の影響で現在も多くの場所が居住や立ち入りが制限されてしまっている福島県双葉郡、日米の安全保障戦略に翻弄されてきた沖縄という二つの地域と在日コリアンの戦後社会史を学ぶことで、「日本史」という名のもと矮小化されてしまう地域の人々の暮らしや、戦後日本の成長の陰にある「中心/周縁」の非対称な構造について検証する。双方向的な授業を行うため、グループでの議論・質問など、積極的な受講態度を求める。

担当教員	前川直哉
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

地域史および在日コリアンの歴史を学ぶことで、「日本史」という名のもとに何が隠蔽されてしまうのかを考察する。「中心/周縁」の非対称な構造の存在について歴史学の観点から考え、その構造を問い直し、犠牲や命の序列化を伴わない社会のあり方を模索する。

各回の内容

1. 福島県双葉郡の戦後社会史（1）
2. 福島県双葉郡の戦後社会史（2）
3. 福島県双葉郡の戦後社会史（3）
4. 福島県双葉郡の戦後社会史（4）
5. 福島県双葉郡の戦後社会史（5）
6. 沖縄の戦後社会史（1）
7. 沖縄の戦後社会史（2）
8. 沖縄の戦後社会史（3）
9. 沖縄の戦後社会史（4）
10. 沖縄の戦後社会史（5）
11. 在日コリアンの戦後社会史（1）
12. 在日コリアンの戦後社会史（2）
13. 在日コリアンの戦後社会史（3）
14. 在日コリアンの戦後社会史（4）
15. 在日コリアンの戦後社会史（5）

準備学習

毎回の授業後、内容の復習をしておくこと。また日頃のニュースなどに関心を持ち、その歴史的背景について考える習慣をつけると良い。

評価方法

授業内ワークシート50%、課題レポート50%

教科書

指定しない。授業中にレジユメを配布する。

参考文献

高橋哲哉『犠牲のシステム福島・沖縄』集英社新書、 開沼博『「フクシマ」論 原子カムラはなぜ生まれたのか』青土社、
 小熊英二・姜尚中『在日一世の記憶』集英社新書
 ほか、授業中にその都度紹介する。

現代の国際関係 A

概要

現代の国際関係を理解する上で必要不可欠な国際関係の現代史について概要を学ぶ。その上で、私たちの日常生活に最も身近な国際関係である東アジア、経済と国際関係という二つのテーマについて学ぶ。

担当教員	前川直哉
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

国際関係の現代史と東アジアの国際関係について学ぶことを通じ、現代の国際関係に関する正確な認識を得るとともに、戦争・紛争のない平和な国際社会構築はどのようにすれば可能かを自分事として考えることができる。また生活に密着した問題である経済と国際関係について学び、経済のグローバル化がもたらす新たな課題とそれへの処方箋について考えることができる。

各回の内容

1. 国際関係の現代史（1）冷戦
2. 国際関係の現代史（2）冷戦後の国際関係
3. 国際関係の現代史（3）21世紀の国際関係
4. 国際関係の現代史（4）国際連合
5. 国際関係に関するトピック研究（1）
6. 東アジア（1）中国
7. 東アジア（2）朝鮮半島
8. 東アジア（3）日本の東アジア外交1
9. 東アジア（4）日本の東アジア外交2
10. 国際関係に関するトピック研究（2）
11. 経済と国際関係（1）貧困
12. 経済と国際関係（2）児童労働とフェアトレード
13. 経済と国際関係（3）外国人労働者1
14. 経済と国際関係（4）外国人労働者2
15. 国際関係に関するトピック研究（3）

準備学習

高校時代に学んだ世界史の内容について復習しておくこと。また毎回の授業後、復習をすること。その他、日頃よりニュースに関心を持ち、背景にある国際関係について考える習慣をつけると良い。

評価方法

授業内ワークシート50%、課題レポート50%

教科書

指定しない。授業中にレジユメを配布する。

参考文献

授業中にその都度紹介する。

現代の国際関係 B

概要

グローバル化の多様かつ多面的な影響によって、現代の国際関係はますます複雑な様相を帯びつつある。この授業では国際関係論および周辺分野の基礎的知識を養いながら、今日的な諸現象をトピックとしてとりあげて、国際関係の領域における深い洞察と視野を身につけることを目指す。

担当教員	田中大介
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年生
時間数	90分×15回（試験を除く）
単位数	2

目標

国際関係論および周辺分野の基礎的知識を習得する。
今日の国際関係をとりまく背景を理解する。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. ナショナリズムをめぐる問題
3. ナショナリズムをめぐる問題
4. 宗教と国家
5. 宗教と国家
6. 都市と多様性
7. 都市と多様性
8. 国境を超える環境問題
9. 国境を超える環境問題
10. 移民と多文化社会
11. 移民と多文化社会
12. トランスナショナルな経済
13. トランスナショナルな経済
14. 国家間紛争と歴史問題
15. 国家間紛争と歴史問題
16. 試験

準備学習

履修に際しての特別な知識は不要だが、理解を深めるためにも、授業の終了後は適宜復習しておくことを強く推奨する。また、学問と向き合うに足る知的関心・積極性・倫理観を有していることが履修の前提となる。

評価方法

最終テスト50%、講義における課題30%、授業への参加度20%を総合的に評価する。

教科書

特になし。必要な教材や資料がある場合には、授業中に配布する。

参考文献

特になし。さらに深い知識を得るための参考文献がある場合は、別途指示する。

経営学基礎

概要

企業活動に関する理論を事例等を通して体系的に学ぶ。

担当教員	山野実
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

企業行動の背景にある企業の論理を理解し、現実の企業の様々な活動をより深く理解する力を身につける。

各回の内容

1. 経営学とは
2. 企業の戦略（1）
3. 企業の戦略（2）
4. 企業の戦略（3）
5. 企業の戦略（4）
6. 企業の戦略（5）
7. ケース・スタディ（1）
8. ケース・スタディ（2）
9. 組織のマネジメント（1）
10. 組織のマネジメント（2）
11. 組織のマネジメント（3）
12. 組織のマネジメント（4）
13. 組織のマネジメント（5）
14. ケース・スタディ（3）
15. ケース・スタディ（4）
16. 試験

準備学習

企業に関するニュースに問題意識をもって接する。

評価方法

課題レポート30%、試験70%

教科書

必要に応じ、レジュメ等を配布する。

参考文献

必要に応じ、授業で紹介する。

公共政策論

概要

国及び都道府県や市町村のしくみと役割、今後の課題について学び、政府や地方公共団体の現状を理解する。同時に、第三の公共と呼ばれて多方面で社会に貢献するNPOについても考察する。必要に応じ、地域の担い手等を招へいして、地域に根差した学びを提供する。

担当教員	山野実他
授業形態	講義
学期	2年後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

地方公共団体の役割と組織について知るとともに、第三の公共とも言われる「NPO」の現状について学ぶことができる。

各回の内容

1. 政府とは何か？
2. 私たちの暮らしと政治
3. 公共政策とは何か？
4. 公共政策とは何か？
5. 公共政策の課題
6. 公共政策の課題
7. 公共政策の課題
8. 福島の今を知ろう
9. 地元のNPO
10. 地元のNPO
11. 東京と被災地を結ぶ取り組み
12. 東京と被災地を結ぶ取り組み
13. 農業と私たち
14. 農業と私たち
15. まとめと報告
16. 試験

準備学習

各省庁や都道府県、市町村のHPの閲覧を習慣にする

評価方法

レポート30% 試験70%

教科書

指定しない

参考文献

その都度紹介する

簿記入門

概要

簿記の基礎として、取引から決算に至る簿記の手続き、貸借対照表、損益計算書等を学ぶ。

担当教員	山野実
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

企業における様々な経営活動を帳簿に記録・計算・整理する方法としての簿記の基礎（簿記3級程度）を理解する。

各回の内容

1. 簿記の基礎（1）
2. 簿記の基礎（2）
3. 仕訳（1）
4. 仕訳（2）
5. 仕訳（3）
6. 仕訳（4）
7. 仕訳（5）
8. 仕訳（6）
9. 仕訳（7）
10. 仕訳（8）
11. 仕訳（9）
12. 帳簿（1）
13. 帳簿（2）
14. 決算（1）
15. 決算（2）
16. 試験

準備学習

復習・問題演習を行い、次の授業に結びつける。

評価方法

試験100%

教科書

必要に応じ、授業で紹介する。

参考文献

必要に応じ、授業で紹介する。

ビジネスマナー演習

概要

共通教育のビジネス実務で学んだ基礎を生かし、本人らしさを表現することが魅力につながることを演習を通して学習する。
4名の講師をグルグルする。加藤の回以外は、毎回制服着用
立ち居振る舞いは、ビデオ撮影あり。

担当教員	加藤・大河原・佐藤(夏)・佐藤(美)
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

ビジネスの各シーンで、「分かる」から「できる」を目指す。学生一人一人が自身の第一印象に留意し、所作の癖や言葉遣いの不適切な面に気づき、どのように振舞えばいい印象を与えられるのかについて考えることができる。日頃の立ち居振るまいに留意し、実践的ビジネスマナーを学ぶことができる。

各回の内容

1. 改めてビジネスマナーとは ファーストイメージのUP
2. 社内業務とマナー
3. ビジネス会話を考える
4. 敬語演習
5. 接客について
6. 接客演習：挨拶・姿勢・歩く
7. 接客演習：応接室対応
8. 訪問演習
9. 電話対応演習（電話をかける）
10. 電話対応演習（電話を受ける）
11. ビジネス文書作成演習 1
12. ビジネス文書作成演習 2
13. 会議の準備
14. 総合演習
15. まとめ

準備学習

ビジネス実務 と のテキストを復習しておく

評価方法

毎回の振り返り30%、演習態度30%、課題作成40%
4名の講師の評価を単純加算平均で評価する。

教科書

『さすが！と言われるビジネスマナー完全版』高橋書店
適宜プリント配布
ビジネス実務 および のテキスト、本学配布のキャリアハンドブック

参考文献

その都度、授業で紹介する。

カウンセリング演習

概要

事例検討とロールプレイを丁寧に積み重ね、カウンセリングプロセスを実践的に学ぶ。尚、受講者にはグループ演習に対する自発的かつ積極的な参画と、対話と傾聴を中心とするコミュニケーションスキルが求められる。

担当教員	後藤 真
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

カウンセリングの基礎理論を理解し、演習を通して基本的なカウンセリング技術および対話の技法を身につける。

各回の内容

1. カウンセリングの意義
2. カウンセリング理論
3. カウンセリングプロセスと事例
4. カウンセリング演習
5. カウンセリング演習
6. カウンセリング演習
7. 「効果的」なカウンセリング
8. 傾聴の意義と技術
9. 事例分析の技術
10. ロールプレイ：事例1
11. ロールプレイ：事例2
12. ロールプレイ：事例3
13. 質問技法とフィードバック
14. カウンセラーの倫理とカウンセリングマインド
15. ライフデザインとカウンセリング ～「わかる」から「できる」へ～

準備学習

授業で配布される自主学習ワークシートに取り組む。また、関連するニュースに関心を持つ。

評価方法

授業レビューシート40%、中間レポート30%、期末レポート30%

教科書

なし

参考文献

その都度、授業で紹介する

メンタルヘルスマネジメント

概要

現代社会におけるメンタルヘルスケアについての基礎知識を習得する。セルフケア、ストレスマネジメント、ストレスコーピング等について具体的事例を通して学習する。

担当教員	後藤 真
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

ストレス理論を中心としたメンタルヘルスケアの基礎知識を学ぶ。ストレスコーピングスキルを身につけ、予防的観点から日常生活に応用することができる。

各回の内容

1. 導入：メンタルヘルスケアの意義
2. 若者を取り巻く環境
3. 変化と適応のメンタルヘルス
4. 思春期～青年期のストレス
5. こころとカラダの不調
6. ストレスコーピングスキル
7. ストレスコーピングスキル
8. ストレスコーピングスキル
9. 心身の健康管理とカウンセリング
10. 演習：事例検討
11. 演習：事例検討
12. 演習：事例検討
13. 演習：事例検討
14. 「私」をケアするライフデザイン
15. セルフケアからトータルケアへ

準備学習

授業で配布される自主学習ワークシートに取り組む。また、関連するニュースに関心を持つ

評価方法

授業レビューシート40%、中間レポート30%、期末レポート30%

教科書

なし

参考文献

その都度、授業で紹介する

リスクコミュニケーション論

概要

システムの安全・安心とリスクに視座し、情報を疑う力、検証する力を養うと共に、リスク認知の視点から、リスクコミュニケーションを学ぶ。食料品・BSE問題・交通事故・医療問題・原発問題など身の回りにある諸問題を取り上げ、具体的にリスクとあるべきコミュニケーションを思考し、社会の安全について教養を深める。意思決定の極性化が蔓延する現代において、どのようにして信頼社会を築くのかを、ディスカッションを通して思考する。

担当教員	加藤竜哉
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

リスクに関する基礎的な用語について自分の言葉で話すことや書くことができる。
複眼的・多角的視野からものごとを捉えることができる。
リスクコミュニケーションの諸問題について、自分の言葉で書くことができる。

各回の内容

1. 安全と安心の構図
2. リスクコミュニケーションとは？
3. 風評被害を考える
4. 人・リスク・事故
5. 天然と自然？
6. リスク認知とリスク判断
7. リスクの伝え方と風評被害
8. リスクコミュニケーションとは
9. 身の回りの諸問題とリスク
10. リスク行動
11. 報道を読み込む：食品
12. 報道を読み込む：原発
13. リスクと共存
14. 情報共有と対話
15. グラフを読み取る眼、まとめ

準備学習

必ず指示されたテキストのページを読み込み、質問を考え、整理しておく。
可能であれば、関連情報をWeb検索すること。

評価方法

毎回の授業前の学習と授業中の質疑応答60%、課題作成40%
(授業前の学習を、大学教育では反転授業と呼んでいます)

教科書

唐木 英明著『不安の構造 リスクを管理する方法』エネルギーフォーラム 2014

参考文献

その都度、紹介する。

上級リーディングA

概要

編入試験に対応できる英文読解力を養うとともに、読解の助けとなる現代社会事情について理解を深める。

担当教員	高橋未希
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

時事問題に関する英文の概要を把握することができる。
 現代事情に関する英単語を習得することができる。
 4年制大学編入試験レベルの英文を読解することができる。

各回の内容

1. オリエンテーション Unit 1/ 現在完了・過去完了
2. Unit 2/ 引用
3. Unit 3/ 受動態・ have + 人 + 動詞原形
4. Unit 4/ with + 名詞 + 現在分詞/ 過去分詞
5. Unit 5/ 現在分詞、過去分詞の形容詞的用法
6. Unit 6/ It is . . . to 不定詞
7. Unit 7/ 関係代名詞
8. まとめ
9. Unit 8/ be + to + 動詞原形
10. Unit 9/ 不定詞
11. Unit 10/ 仮定法
12. Unit 11/ 動名詞
13. Unit 12/ 分詞構文
14. Unit 14/ 間接疑問文・強い願望表現
15. Unit 15/ 挿入句
16. まとめ

準備学習

学習した新出単語を覚え、豆テストに備える。
 出された課題をしっかりと行っておくこと。

評価方法

出席・参加態度・小テスト50%、
 まとめテスト50%

教科書

『News Matters』南雲堂

参考文献

特にないが、積極的に新聞を読み教養を深めておくこと。

上級リーディングB

概要

編入試験レベルの英語長文読解力を養うとともに、その背景となる時事的諸問題について自分の見識から読み進めることを学ぶ。

担当教員	高橋未希
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

時事問題に関する英文を理解することができる。
 現代事情に関する英単語の語彙数を増やすことができる。
 4年制大学編入試験レベルの英文を読解することができる。

各回の内容

1. オリエンテーション	長文読解演習 1
2. 長文読解演習 2	
3. 長文読解演習 3	
4. 編入試験過去問演習 1	
5. 編入試験過去問演習 2	
6. 編入試験過去問演習 3	
7. 編入試験過去問演習 4	
8. 中間まとめ	
9. 編入試験過去問演習 5	
10. 編入試験過去問演習 6	
11. 編入試験過去問演習 7	
12. 長文読解演習 4	
13. 長文読解演習 5	
14. 長文読解演習 6	
15. まとめ	
16. 期末試験	

準備学習

学習した新出単語を覚え、過去問演習に備える。

評価方法

出席・参加態度・小テスト50%
 まとめテスト50%

教科書

『Skills for Better Reading ~ Advanced Edition ~』 南雲堂

参考文献

なし

北米の歴史と文化

概要

北米とは一般に北アメリカ大陸に属する地域を指す概念であり、アメリカ合衆国およびカナダなどの大国をその中心とすることからも、現代世界に及ぼす広範な影響力を察することができるだろう。この授業では主に北米の地域における歴史的な事象や、今日に至る文化的な変容の過程などを題材として扱いながら、北米に対する注目を通じて今日の世界をみるための視野を養う。

担当教員	田中大介
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回（試験を除く）
単位数	2

目標

北米の歴史と文化に関する基礎的な教養を培う。
現代世界において北米諸国がもたらすさまざまな影響力を理解する。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 「アメリカ人」とは誰なのか
3. 「アメリカ人」とは誰なのか
4. ヨーロッパからアメリカへの文化継承
5. ヨーロッパからアメリカへの文化継承
6. 北米の宗教事情
7. 北米の宗教事情
8. 多様化するエスニシティ
9. 多様化するエスニシティ
10. 多様化するエスニシティ
11. 政治と経済
12. 政治と経済
13. 科学技術
14. 科学技術
15. 日米関係の構造と背景
16. 試験

準備学習

履修に際しての特別な知識は不要だが、理解を深めるためにも、授業の終了後は適宜復習しておくことを強く推奨する。また、学問と向き合うに足る知的関心・積極性・倫理観を有していることが履修の前提となる。

評価方法

最終テスト50%、講義における課題30%、授業への参加度20%を総合的に評価する。

教科書

特になし。必要な教材や資料がある場合には、授業中に配布する。

参考文献

特になし。さらに深い知識を得るための参考文献がある場合は、別途指示する。

観光英語

概要

観光英語検定とは国際人としての英語力を身につけることを目的とし、外国人とのコミュニケーション力を観光の分野を通してその運用能力を計るものである。約5,000語の語彙力・適切な文法・構文の知識が必要とされ、実用英語検定2級に相当する。ここでは旅行者として、また観光業で用いられる一般的なe英会話表現及び専門用語を学び、観光英語検定2級取得を目指す。

担当教員	佐藤夏美
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

予約関連業務、ホテル関連業務、出入国に関する手続き、機内放送等のアナウンス、食事、通貨、交通機関等、観光・旅行業に必要な専門的な単語および英語による日常会話ができる。リスニングやロールプレイングを通して実際の場面を想定し、英語でのコミュニケーションができる。観光に必須の文化（国内外・異文化）、地理、歴史の知識を深める。

各回の内容

1. Travel information
2. At the airport
3. Hotel
4. Dining
5. Asking and giving directions
6. Buses and trains
7. Mailing and money exchange
8. Review 1
9. Sightseeing 1
10. Sightseeing 2
11. Problems and complaints
12. Tour conductor duties
13. Sightseeing in Japan
14. 課題・演習
15. Review 2
16. 試験

準備学習

テキストを予習し、新出単語及び表現を確認しておく。ユニット毎の単語テストに備え、継続的に学習する。講義で指示がある部分については自己学習とし、英作文の添削を希望する場合は随時提出する。

評価方法

単語テスト20%、中間確認テスト30%、学期末テスト30%、課題20%

教科書

全国語学ビジネス観光教育協会・観光英検センター編 『ENGLISH FOR TOURISM intermediate』 三修社

参考文献

TOEIC演習B

概要

This course will focus on the Reading section of the TOEIC test. Tips for increasing the student's score will be discussed in detail. Mini tests also will given in each lesson. This class will be in ALL ENGLISH.

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

The student will learn necessary vocabulary and grammatical structures found in the Reading section of the TOEIC test. The goal is to improve one's overall score for the summer in-school TOEIC test.

各回の内容

1. Course Introduction
2. TOEIC Reading Test (1)
3. TOEIC Grammar
4. TOEIC Grammar
5. TOEIC Vocabulary
6. TOEIC Vocabulary
7. Part 5 (Try it Out / Steps to Success)
8. Part 5 (Review)
9. Part 6 (Try it Out / Steps to Success)
10. Part 6 (Review)
11. Part 7 (Try it Out / Reading for Main Ideas)
12. Part 7 (Reading for Detail / Making Inferences)
13. Part 7 (Steps to Success)
14. Part 7 (Review)
15. TOEIC Reading Test (2)

準備学習

Learn the necessary vocabulary for each lesson and complete the grammar worksheets.

評価方法

Reading Test improvement 30%, In-class work and mini-tests 30%, Vocabulary Quizzes and Grammar sheets 30%, Class participation 10%

教科書

『Pass the TOEIC Test - Introductory Course』 First Press ELT

参考文献

情報リテラシー

概要

共通教育の「情報演習」よりも、さらに実践的な情報リテラシーを学習する。
卒業後企業や編入先の環境を考えると、情報検索、作業効率、クラウドコンピューティングの3つのスキルは、今や必ず獲得しなければならないスキルである。これら3つのスキルを中心に、自ら思考し活用できる力を養う。
授業以外に自学・自習する時間が必要です。

担当教員	加藤竜哉
授業形態	演習
学期	2年前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

- 1) インターネットを使って、与えられた情報検索課題を、自ら解くことができる。
- 2) 実務で素早く業務を遂行するために、与えられたアプリケーションの操作方法を改善することができる。
- 3) クラウドコンピューティングが日常生活や企業活動へ与える影響を思考することができる。

各回の内容

1. オリエンテーション：全体の流れと学習方法（従来の検索や操作を振り返る）
2. 情報検索・収集の目的と情報源
3. 検索エンジンの活用
4. 検索演習と情報分析
5. 情報の取扱と実務検索演習と課題
6. 作業効率を考える：Windows操作、ブラウザ操作の改善と演習
7. 作業効率を考える：Word操作の改善と演習
8. 作業効率を考える：Excel操作の改善と演習
9. 作業効率を考える：PowerPoint操作の改善と演習
10. 効率の良い操作を確認する（達成度テスト）
11. クラウドとは何か
12. さまざまなクラウドの特徴を知る
13. Office 3 6 5 と演習(その1)
14. Office 3 6 5 と演習(その2)
15. 情報リテラシー総合演習と評価

準備学習

課題作成のための事前調査
学習の振り返りと、復習操作。

評価方法

毎回の振り返り（課題提出やテストを含む）情報検索ブロック30%、コンピュータスキルズ40%、クラウドコンピューティング30%

教科書

なし。
適宜プリント配布

参考文献

都度紹介する。

キャリア教養特講

概要

地球上あちこちでも、日本あちこちでもイベントは365日にわたって、きっとどこかで行われている。歴史あるもの、地域性が強いもの、多世代の人々によるもの、学生の力だけによるものなど、多種多様である。ならば、どうしてイベントがあるのだろうか。

この授業は、イベントそのものを自ら企画し、実践に移していくプロジェクト型のアクティブラーニングである。この学びを通して、イベントの存在意義はどこにあるか探究していこう。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90×15回
単位数	2

目標

ある一つのプロジェクトを達成するためには、自らの知識を組み立てることと他者との連携が最も重要である。他者とのコミュニケーション、ホウレンソウの重さ、折り合いをつけること、時間を守ること、逆算したプランニングを行うことなどをイベント実践を通じて学び、チームにおける行動力と知識探究力を修得することが本授業の目標である。

各回の内容

1. イベントは何のために行うのか
2. イベントのさまざまな形態～地域への視野を持つ～
3. ゴールイメージの重要性
4. チームワークと巻き込み力～成功例と失敗例から学ぶ～
5. 実施会場の視察
6. 実施計画書の作成1～イベントテーマを考える
7. 実施計画書の作成2～アイデアの拡張と絞り込み～
8. 実施計画書の作成3～チーム分割の必要性と重要性～
9. 準備進捗のシェアと全体課題の絞りだし1～タスクの洗い出し～
10. 準備進捗のシェアと全体課題の絞りだし2～タイムマネジメント～
11. 準備進捗のシェアと全体課題の絞りだし3～チームマネジメント～
12. 準備進捗のシェアと全体課題の絞りだし4～動態表作成～
13. 準備進捗のシェアと全体課題の絞りだし5～リスクマネジメント～
14. イベントの実施～地域活性と自己変容を目指して～
15. イベントの意義探し～振り返りにかえて～
16. 記述試験

準備学習

できるだけ多くのイベントに参加したり、調べてくること。また全国ニュースを意識しておくこと。

評価方法

チームワークへの態度50%、振り返りシートへの記述内容20%、記述試験30%

教科書

なし

参考文献

なし

キャリア教養特講

概要

本授業は、ミクロやマクロの経済論を学ぶものではない。具体的な企業を取り上げ、分析研究し、サービス業に通底しているものは何かを見つけ出すことを軸とする授業である。ワークを含んだ講義とし、自ら体験することでの「気づき」と議論を通じての「他者の意見を学ぶこと」を重視していく。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

様々なサービス業に共通する根幹的、本質的な部分を理解できる。さらに今まで気づかなかった戦略に意識を向け、経営的視点を持つことができる。

各回の内容

1. イントロダクション
2. サービスとホスピタリティ
3. ディズニーランド研究(1)
4. ディズニーランド研究(2)
5. ディズニーランド研究(3)
6. サービス業の人材育成戦略
7. ストアコンパリゾンと消費者心理
8. コンビニ研究(1)
9. コンビニ研究(2)
10. コンビニ研究(3)
11. コンビニ研究(4)
12. 冠婚葬祭業研究(1)
13. 冠婚葬祭業研究(2)
14. 日本人とサービス
15. これからのサービス業の展望～総括
16. 筆記試験

準備学習

普段からサービス業界のニュースにアンテナを立てておくこと。

評価方法

振り返りシートにおける気づき30%、ワークにおける積極性20%、プレゼンテーション20%、記述試験30%

教科書

特になし

参考文献

その都度、紹介する。

特別研究 情報と人・心理

概要

【情報と人・心理】

加藤ゼミの中心は、情報と人です。人と情報との関わり、ICT機器を使った人と人とのコミュニケーション、使っている人そのものの心理状態など、情報機器を使う人の心の問題が数多く存在しています。ITの未来像など、情報と関わりあうときの心理的側面・科学的側面を含めて研究します。

もちろん、情報スキルを上げるために何かを作ってみたい。さらに、未来の生活はどのようなものになるのだろうか？などの未来科学や、原発・放射線に関する事、家庭の電気に関する事なども大歓迎です。PCを使って、1年間やり取りしますので、PCスキルを上げたい方もお待ちしております。

担当教員	加藤竜哉
授業形態	講義・演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

私たちの生活に溢れる情報、その情報と関わりあうときの心理的側面・科学的側面を研究する。安全・安心、webサイトの未来、ICT機器全般（スマホ含む）、eラーニングコンテンツ作成、情報の光と影、ニセ科学(未科学、間違い科学等)、再生医療、高齢化、遠婚、食生活とweb、ITと個の力など、生活の情報資源を心理学的視点や科学的視点から捉え研究します。（付带的に、PCスキルを向上させることができる）

時間数では全く足りないので、授業時間外での学習は必須です。専用のSNSも使用します。

各回の内容

1. オリエンテーションと1年間の研究について
2. 情報と人・心理：テーマ概要と1年間の進め方、SNSサイト登録
3. 論文を書く前に（1）：論文とは？先輩の論文から学ぶ
4. 論文を書く前に（2）：論文の形式と引用・参考、図表の作り方
5. テーマのダウンサイジング
6. 研究計画を作る 提出
7. テーマ発表と質疑応答 提出
8. 調査整理と実態調査または制作・実験と整理（1）
9. 調査整理と実態調査または制作・実験と整理（2）
10. 調査整理と実態調査または制作・実験と整理（3）
11. 調査整理と実態調査または制作・実験と整理（4）
12. 調査整理と実態調査または制作・実験と整理（5）
13. 前期中間発表準備（1）
14. 前期中間発表（グループ1） 提出
15. 前期中間発表（グループ2） 提出
16. 論文構成をマインドマップで作成する 提出
17. 論文作成と指導・助言（1）
18. 論文作成と指導・助言（2）
19. 論文作成と指導・助言（3）
20. 論文作成と指導・助言（4）
21. 論文作成と指導・助言（5）
22. 後期中間発表（グループ1） 提出
23. 後期中間発表（グループ2） 提出
24. 論文作成と指導・助言（6）
25. 論文作成と指導・助言（7）
26. 論文作成と指導・助言（8）
27. 論文作成と指導・助言（9）
28. 論文発表（グループ1） 提出
29. 論文発表（グループ2） 提出
30. 発表会の準備

特別研究 情報と人・心理

準備学習

1年後期のアカデミックスキルで作成した論文概要や各自のダウンサイジング資料を読み返しておく。

評価方法

毎回の振り返り25% 指定した課題提出25% 論文と発表50%

教科書

特にありません。

参考文献

各自の研究テーマに関する文献を含めその都度、授業で紹介する。
小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書 2009

特別研究 経済・経営

概要

経済、企業等の経営、業界動向に関することをテーマとした研究を行う。研究を通して、経済、企業経営等に関する見識を深める。

担当教員	山野実
授業形態	講義・演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

自らの研究・他の学生の研究成果により、経済、企業経営等に関する知識や見識を広める。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 論文について
3. 調査研究の進め方
4. テーマ(案)・研究計画の発表
5. 調査研究(1)
6. 調査研究(2)
7. 調査研究(3)
8. 調査研究の進捗状況の発表
9. 調査研究(4)
10. 調査研究(5)
11. 調査研究(6)
12. 中間発表準備
13. 中間発表(研究テーマと論文の構成)(1)
14. 中間発表(研究テーマと論文の構成)(2)
15. 中間発表(研究テーマと論文の構成)(3)
16. 論文作成、助言・指導(1)
17. 論文作成、助言・指導(2)
18. 論文作成、助言・指導(3)
19. 論文作成、助言・指導(4)
20. 中間発表準備
21. 中間発表(1)
22. 中間発表(2)
23. 論文作成、助言・指導(5)
24. 論文作成、助言・指導(6)
25. 論文作成、助言・指導(7)
26. 論文作成、助言・指導(8)
27. 最終発表準備
28. 最終発表(1)
29. 最終発表(2)
30. 最終発表(3)

特別研究 経済・経営

準備学習

授業で学んだこと、周囲で起こっている様々な出来事、ニュースなどに対して問題意識をもって接する。

評価方法

論文・最終発表（論文の構成・内容、表現力など）100%

教科書

必要に応じ、レジュメや資料を配布する。

参考文献

各自の研究テーマに応じ紹介する。

特別研究 生涯学習・自己づくり・地域づくり

概要

「生涯学習」を軸とする研究を行う。学ぶとは何かを追究することで、知と知、知と人、人と人、人と地域という様々なつながりの重要性、財産性、そしてその魅力を明らかにする。教育学、心理学、社会学、地域づくりをテーマにすることが多いが、生涯学習そのものが広い概念のため、多様かつ多角的なテーマ設定が可能なのが特徴。高等教育機関における学びの集大成のため、卒業論文執筆に向けて、真摯に、丁寧に指導していく。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	通年
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

“いつでも・どこでも・だれでも”自己実現可能な生涯学習社会を構築するためには、いかなる必要があるのか。また私たちには何ができるのか。その可能性を、研究を通して理解し追究できる力を身につけ、卒業論文を仕上げることを本授業の目標とする。

各回の内容

1. オリエンテーション（一人一研究論）
2. 論文をなぜ書くか
3. 生涯学習概論
4. 生きがい論について
5. コミュニティとは
6. 連携論と地域づくり1
7. 連携論と地域づくり2
8. 研究テーマの決定
9. 調査法について
10. 中間発表1～研究テーマと論文構成～
11. 中間発表2～研究テーマと論文構成～
12. 中間発表3～研究テーマと論文構成～
13. 中間発表4～研究テーマと論文構成～
14. 論文執筆指導1
15. 論文執筆指導2
16. 論文執筆指導3
17. 論文執筆指導4
18. 論文執筆指導5
19. 論文執筆指導6
20. 論文執筆指導7
21. 論文執筆指導8
22. 論文執筆指導9
23. 論文執筆指導10
24. 最終発表1
25. 最終発表2
26. 研究報告書の作成1
27. 研究報告書の作成2
28. 研究報告書の作成3
29. 特別研究発表会1
30. 特別研究発表会2

特別研究 生涯学習・自己づくり・地域づくり

準備学習

生涯学習に関する各自治体や機関の取り組みの情報を探しておく。

評価方法

調査への取り組み姿勢40%、論文50%、授業への積極的参加態度10%

教科書

香川正弘・鈴木真理編『よくわかる生涯学習』ミネルヴァ書房(2008年)

参考文献

その都度、各自の研究テーマに合わせて紹介する。

特別研究 文化と社会

概要

田中ゼミでは「文化を調べる」ことを主なテーマとする。人間は誰しも身の回りの文化を振り込んで生活しているが、そのことを精緻に省みる機会は少ない。また、異なる人間同士がつながり、触れ合い、生活していくためには、お互いの文化的背景をしっかりと認識することが重要であるのは論を待たない。したがってこの演習では、学術的な文化理論を着実に習得することを経て、学生諸君がそれぞれに抱く文化への関心に基づいた研究を遂行し、これからの社会を担う人間となるための豊かな素養を築くことを目指す。

担当教員	田中大介
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

まずは文化をめぐる諸問題を扱ってきた中心的学問である文化人類学を中心として、文化という題材に光を当てた幅広い研究のエッセンスを理解することが、この演習の目的である。その過程を通じて身につけた学問的な思考方法をもとに、自らのキャリア・パスや関心に沿った論文を執筆することによって、「調べる」・「気付く」・「考える」ための実践的な技法や、相手に対して的確にモノゴトを伝えるための能力を習得していく。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 文献読解
3. 文献読解
4. 文献読解
5. 文献読解
6. 文献読解
7. 文献読解
8. 文献読解
9. 文献読解
10. 質的観察演習
11. 質的観察演習
12. 質的観察演習
13. 研究調査計画の事前プレゼンテーション
14. 研究調査計画の事前プレゼンテーション
15. 総合ディスカッション
16. 研究調査計画のプレゼンテーション
17. 研究調査計画のプレゼンテーション
18. 個別論文指導
19. 個別論文指導
20. 個別論文指導
21. 個別論文指導
22. 個別論文指導
23. 個別論文指導
24. 個別論文指導
25. 個別論文指導
26. 個別論文指導
27. 個別論文指導
28. 論集作成
29. 論集作成、および総合ディスカッション
30. 研究発表会

特別研究 文化と社会

準備学習

演習では、自分だけでなく他の学生が発表した内容も全て自分の知識として学びとることを心がけ、論議には積極的に参加すること。また、関連する文献や資料を自発的に探し、その理解に努める姿勢が求められる。

評価方法

論文50%、プレゼンテーション30%、および論文への貢献20% を総合的に評価する。

教科書

必要に応じて、演習内で指示する。

参考文献

必要に応じて、演習内で指示する。

特別研究 メンタルヘルスとコミュニケーション

概要

各自の主體的な関心に基づき、対人関係、メンタルヘルス、グループファシリテーション等をテーマとした研究を遂行する。心理学の知見に基づいた学術的な調査、文献読解、ディスカッション、および論文作成を通して、自己と世界を客観的に再考する能力の習得を目指す。

担当教員	後藤真
授業形態	講義・演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

自己、他者、世界との「つながり」と「関係性」に着目し、現実社会における様々な課題を学問的に考察する力を培う。またクラスディスカッションを通して相互に研鑽し、内的気づきに基づく学び合いのスキルを獲得する。

各回の内容

1. 前期オリエンテーション

2. 概説：論文について

3. 文献読解1

4. 文献読解2

5. 文献読解3

6. 研究調査計画予備プレゼンテーション

7. 研究調査計画予備プレゼンテーション

8. 調査研究1

9. 調査研究2

10. 調査研究3

11. 調査研究4

12. 調査研究5

13. 研究調査計画プレゼンテーション

14. 研究調査計画プレゼンテーション

15. 総合ディスカッション

16. 後期オリエンテーション

17. 論文作成・個別指導1

18. 論文作成・個別指導2

19. 中間ディスカッション

20. 論文作成・個別指導3

21. 論文作成・個別指導4

22. 論文作成・個別指導5

23. 論文作成・個別指導6

24. 論文作成・個別指導7

25. 論文作成・個別指導8

26. 論文作成・個別指導9

27. 総合ディスカッション

28. 最終発表 1

29. 最終発表 2

30. 最終発表 3

特別研究 メンタルヘルスとコミュニケーション

準備学習

関連する文献や資料を主体的に検索し、理解した内容を要約して記録すること。また、クラスディスカッションには積極的に参画し、自己だけでなく他者の学びにも貢献することが求められる。

評価方法

論文50%、クラスディスカッションへの貢献30%、プレゼンテーション20%を総合的に評価する。

教科書

必要に応じ演習内にて資料等を配布する。

参考文献

各自の研究テーマに応じ演習内にて指示する。

特別研究 99%英語での研究

概要

This course will focus on conducting original research and presenting a strong opinion on a topic that is important to the student. Active discussion about various issues will occur. Writing skills in English will also be taught and practiced extensively. This class will be in ALL ENGLISH.

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	講義
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

1. The student will be able to express their opinion in English.
2. The student will understand how to conduct original research.
3. The student will know how to find correct and useful information.

各回の内容

1. Introduction
2. Thesis Statements
3. Thesis Statements
4. Making Strong Opinions
5. Making Strong Opinions
6. Supporting Your Ideas
7. Supporting Your Ideas
8. Connecting Your Thoughts
9. Connecting Your Thoughts
10. Writing an Outline
11. Writing an Outline
12. Developing Your Outline
13. Developing Your Outline
14. Developing Your Research
15. Developing Your Research
16. After Summer Discussion
17. Individual Work
18. Individual Work
19. Individual Work
20. Individual Work
21. Individual Work
22. Individual Work
23. Individual Work
24. Individual Work
25. Individual Work
26. Individual Work
27. Citations in Your Paper
28. Reference Page Writing
29. Final Thesis Deadline
30. Final Thesis Presentations

特別研究 99%英語での研究

準備学習

Students will be expected to participate actively in the class discussions and research the topic of their choice on their own.

評価方法

Final thesis 50%, Weekly assignments 20%, In-class work 20%, Class participation 10%

教科書

参考文献

特別研究 メディアとその蓄積

概要

この演習では主に下記2点のテーマについて扱う：
 ・情報・メディアと人間や社会・政治などがどのように相互に影響を与えあっているかを理解し、普段何気なく触れている情報・メディアは本質的に何を伝え何を表しているのかを考えていく。
 ・「情報が蓄積されない」要因として、表現に対するさまざまな抑制を捉え、知的自由と情報の蓄積に関する議論を行う。

担当教員	木川田朱美
授業形態	講義・演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

・メディア論や図書館情報学に関する学問的な知見に深く触れ、そうして培った思考方法や研究方法論を基礎に、関心をもつものごとに対し調査分析を加え、論文を執筆する。
 ・論文を執筆する過程で、文献探索・調査・統計処理・文章執筆・発表などを繰り返し行う。そのプロセスから、卒業後自ら学び、考え、考えたことを相手に伝えるための総合的な力を修得する。

各回の内容

1. オリエンテーション 特別研究の方針と進め方
2. テキスト購読1 第一章
3. メディア研究のための文献探索と引用法
4. テキスト購読2 第二章
5. テキスト購読3 第三章
6. テキスト購読4 第四章
7. テキスト購読5 第五章
8. テキスト購読6 第六章
9. テキスト購読7 第七章
10. テキスト購読8 第八章
11. 研究対象・研究手法・研究目的の設定
12. 研究・調査スケジュールの設計1 論文章構成の設定
13. 研究・調査スケジュールの設計2
14. 先行研究の調査
15. 進捗報告・夏期休業中の調査スケジュール確認
16. 調査スケジュールの再設計1
17. 調査スケジュールの再設計2
18. 論文執筆指導1
19. 論文執筆指導2
20. 論文執筆指導3
21. 論文執筆指導4
22. 論文執筆指導5
23. 論文執筆指導6
24. 論文執筆指導7
25. 論文執筆指導8
26. 論文執筆指導9
27. 論文執筆指導10
28. 特別研究発表会準備1
29. 特別研究発表会準備2
30. 特別研究発表会

特別研究 メディアとその蓄積

準備学習

自分の興味のあるテーマに合致する書籍や雑誌記事があればそれを精読しておく。

当日扱うテキストを事前に配付する。全員が必ず精読し、議論には積極的に参加すること。また、関連する文献を自分で調べ、いつ話を振られても紹介できるようになっておく。

評価方法

毎週の報告（レジュメ提出，発表，修正レジュメ提出）40%

論文60%

以上による総合評価を行う。

教科書

- i. 吉村和真，福岡良明編著。「はだしのゲン」がいた風景：マンガ・戦争・記憶。梓出版社，2006，303p.
- ii. 藤田真文編著。メディアの卒論：テーマ・方法・実際。ミネルヴァ書房，2011，278p.

参考文献

- i. 有馬明恵. 内容分析の方法. ナカニシヤ出版. 2007, 86p.
- ii. クリップENDORF, クラウス. メッセージ分析の技法：「内容分析」への招待. 勁草書房, 1989, 269p. xii.
- iii. 藤本由香里. 私の居場所はどこにあるの？：少女マンガが映す心のかたち. 朝日文庫, 2008, 450p. xi.
- iv. マクルーハン, マーシャル. メディア論：人間の拡張の諸相. みすず書房, 1987, 384p.
- v. 松井茂記. 図書館と表現の自由. 岩波書店, 2013, 260p.

など

特別研究 言語と文化・人

概要

言語そのものまたはそれに関連する文化的・社会的・人間発達のな要素を交えながら言語学についての広い見識を獲得し、思考を深めることを目的とする。身近な事象に対する視点を言語学的見地から考察し、それぞれのテーマからより深い研究を行い、論文を執筆していく。

担当教員	高橋未希
授業形態	講義・演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

自ら関心を持ったテーマを選んで卒業論文を仕上げることができる。第二言語習得や英語教育、言語政策論、社会言語学、日本語教育などの分野から自由にテーマを選び、知識と考察を深めることができ、それぞれの考察を論証する。

各回の内容

1. オリエンテーション	研究とは何か、論文を書くということは何をするのか。 / 言語学とは何か
2. 文献購読・発表	
3. 文献購読・発表	
4. 文献購読・発表	
5. 文献購読・発表	
6. 文献購読・発表	
7. 文献購読・発表	
8. 研究テーマの見つけ方	
9. 文献を探す方法	
10. 調査の方法	
11. テーマの絞り込み	
12. 論文指導	
13. 論文指導	
14. 論文指導	
15. 論文指導	
16. 中間発表	
17. 中間発表	
18. 論文指導	
19. 論文指導	
20. 論文指導	
21. 論文指導	
22. 論文指導	
23. 論文指導	
24. 最終報告	
25. 論文集作成	
26. 論文集作成	
27. 論文集作成	
28. 特別研究発表会準備	
29. 特別研究発表会準備	
30. 特別研究発表会	

特別研究 言語と文化・人

準備学習

関連する文献や資料を主体的に検索し、理解した内容を要約して記録すること。演習では、自分だけではなく他の学生が発表した内容も自分の知識として学びとることを心がけ、ディスカッションには積極的に参加すること。

評価方法

調査への取り組み姿勢40%、論文50%、授業への積極的参加態度10%

教科書

必要に応じ演習内にて資料等を配布する。

参考文献

各自のテーマに関連したものを適宜演習内にて指示する。